

施策番号 5-1-3	施策名 地域活動の推進	基本目標	町民が主役となった自治に基づくまちづくり			
		政策名	町民が主役となった地域づくり			
	主管課	企画財政課	課長名	石田 哲	内線	220
	施策関係課	総務課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
町民の主体的な地域活動への参加を促進し、町民全体のまちづくりをすすめます。		町民	主体的に地域活動に参加する				町民全体のまちづくりに結びつける
成果指標	説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① 地域の活動に参加している町民の割合	住民意識調査	%	48.6	45.1	45.1	55.0	
② 町民活動支援センターの運営に満足している割合	町民活動支援センター調べ	%	未調査	87.5	85.2	80.0	
③							
成果指標設定の考え方	①前期実施計画の目標を55%としており、前期期間中45～53%程度で推移していることから引き続き55%以上を目標とする。 ②登録団体が支援センターに求めるものが多様であることから80%を目標とする。						

2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	96,028	110,789
人工数(業務量)	1,6810	1,2916

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	大きな変化はなく、変わらなかったと判断した。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	「町民活動支援センター」が町民に定着しつつあり、登録団体は増えている。地域活動に参加している町民の割合は、目標には達成していないが、施策全体としては、概ね達成できたと考える。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	地域集会施設維持管理事業 協働のまちづくり推進事業 町民活動支援センター運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> ●町民活動の拠点である地域集会施設については、老朽化と耐震強度不足が指摘されているため、「効果的・効率的な行政運営施策」の中で再整備方針を定めた公共施設等総合管理計画が策定された。この計画に基づき地域集会施設再整備方針を策定し、集会施設の再整備を進めた。 ●「町民活動支援センター運営事業」は、毎年度事業内容を検証しながら、地域活動の推進を目指した。 ●上美生地域において地域の将来像を話し合い、地域主体となって課題解決を試行している。 ●町内会の活性化を目指し、市街地町内会連合会内に活性化委員会を設置し、町とともに活性化の検討を行った。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 協働のまちづくりを進めていくためには、町民が主体的に活動する環境の整備が必要であるが、町内会や老人会の加入率低下に歯止めがかからず、地域活動の前提にある地域コミュニティの希薄化が進行している。</p> <p>《今後の予測》 地域活動を支援する集会機能拠点の再整備・財政的支援・コミュニティの場づくりなどを積極的に推進していくべきである。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	老朽化が進んだ地域集会施設の再整備について要望がある。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たにに取り組むべき課題)

課題① 地域集会施設の再整備	地域集会施設再整備方針に基づき、各地域住民が主体となって施設利用の在り方を議論し、効率的な施設再整備が必要である。
課題② 地域コミュニティの高齢化と希薄化	地域活動の原点である地域コミュニティに関わりたくない住民の割合が増え、町内会加入率の低下が大きな問題となっている。一方で、農村部において地域の将来像を地域主体となって話し合う機運が高まっている。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

		A	B	C	D	E
評価	町民活動支援センター登録団体の増加や、町内会活性化に向けた取組などが進められており、策定時と比較して前進したと評価する。			○		
今後の取組に対する意見	地域住民が主体的に活動する環境の整備が必要である。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

		A	B	C	D	E
評価	庁内評価と同じく策定時と比較して前進したと評価する。			○		
今後の取組に対する意見	町民活動支援センターはまちの駅の中にあるが、それぞれ管理している部署が違い不便と感ずることもあるため、利用しやすくなる取組をしてほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				